

私の学生時代

スポーツ万能選手

猿丸 吉左衛門

1

大正九年、同志社は新大学令による予科三年制を発表し、私学官学を問わず学士号を与えられることになり、当時、慶・早・明等私学の雄は皆これに倣った。旧制の予科二年コースを選ばずに三年制に入った学生は、新入生も入れ総数千名たらずだったと思う。前学長原田助先生はハワイ大学教授になって去られ、総長は未だ決まらず今の高山京都市長の厳父（中村栄助氏）が事務取扱の学長であった。新入の私は中村氏から特に親しく同志社の話をうかがった。当時スポーツをやること自体が社会から罪惡視され勝の時だった、が、

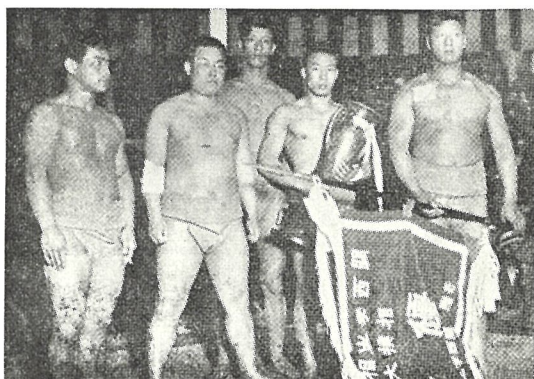
なかなか進歩的な方でスポーツをしつかりや
りなさいと、ハッパをかけられた。

六月に海老名弾正牧師が母校同志社に初の
総長として赴任せられ、あの慈顔白鬚の偉大
なる姿を現わすと学校は活気を生じて来た。
チャペルにおける先生の説教にはかかさず聞
きに入り、将来の世界觀を予言された言葉
「諸君今に見よ空には鉄片（飛行機）が自由に
飛び水面下にも鉄船が自由に運航出来、世界
は一つとなり空間は縮小されん」。当時の私
には全く偉大なる予言者の再来かと思われ
た。この総長こそ名総長だと思ったのは私だ
けではなからう。総長は同志社開校当時の熊
本バンドの一人、徳富兄弟や横井時雄などと
新島校祖に教えられた組なのであった。私は
家庭状況から人に対して割合好ききらいをす
るたちで、交友關係にしろ師弟關係にしろ、
尊敬する人に対しては命でも金でも差出すに
おしめない純情型だったから、校内の総長
室、あるいは新町頭の総長宅にも、学校行政
でもスポーツのことでも遠慮なく話に行く。
総長は何時も笑顔で迎え、きいて下さった。
会う時、別れる時にお互に大きい手で握りあ
った。全く血の通う嬉しさであった。これが

私のスポーツ奨励の原動力たらしめたのだ。

2

僕は中学時代柔道を名を売っていたから、
直ちに柔道部に入り、同窓の園部、熊本先輩
らと道場で楽しく田畑六段に師事した。二年
生になった時には四、五十人の部員中相手に
なる者は二、三人しかいない。試合に出ても
負けを知らない。武徳会で昇段試合には何時
も四五人抜いて、同志社の柔道を独り負う氣
魄が出来てきた。また道場の脇でやっていた
相撲部の土俵稽古を時々見ていたが、部員は
十人足らずで平瀬が大将、クラスメートの平
井が新人だが氣をはいているくらいで他に片
岡、近藤、佐山君らがいた。学生相撲は堺大
浜で毎日新聞社主催の全国大会が当時の世相
に合って今のプロ野球位の熱狂ファンがあっ
た。十一月の大会には毎年黒星だ。それで平
瀬主将は平井を通じ一度土俵に上つてくれと
言う。柔道衣をぬいで褌にかえ土俵に上り、
次々に大外や腰業で片付けたが誰一人倒して
くれない。さあ大変、大浜に出てくれと承諾
もしないうちに出場を申込んだ。いやだった
が仕方ない。相撲で初出場、五回連勝。個人



大正14年 関西最強のメンバー（右端が筆者）

戦にも三勝、準々戦で退いたが、一躍同志社はダークホース視され、当時の浅岡（早）、河上（明）、阿部（慶）ら多士済々の中に一躍名を列することになった。翌年は勝放なし優勝戦に竹田（関大）と争ったが涙をのんで横綱を逸し、その後本格的な修練をしなければ四ッ相撲で柔道の手では制覇出来ないという、出羽梶之助氏より稽古代鏡岩、羽後鱈、

兼六山らを派遣して貰った。これが突張りの武器となり、二年後には無人の境を行く横綱となった。予科二年の時、出羽海部屋より勧誘あり、学校に朝日山が人力車を乗付け好条件の数々を披歴されたことも思い出である。

その間陸上競技部は故佐伯殿大先輩（当時主将）と半井修一君（マネージャー）二人がフールド方面を援けてくれたとのこと、これも力を借して別格扱い。インターカレデに出て軽く投げても優勝、てき弾筒投、ハンマー投等日本新記録の保持者となり、ハンマーのごときは後輩塚本が破るまで約十年間の永きにわたる保持であった。その間極東大会や日本選手権大会で活躍した。柔道も、主将として大学一年の三月満二十歳の弱冠で四段になり武徳会創立以来の記録を残した。全国学生大会で四段は当時三人位しかいなかったことも、いかに同志社柔道が抜き出た存在だったかわかるう。

3

大正十二年五月、日本男子の最高の榮譽である徴兵検査に甲種合格の銘印をおされた。この結果父よりプレゼントとして夏休みにア

メリカへ行かせてもらった。帰りにシャトルに出て間もなく関東大震災を知った。

その翌年バリのオリンピックには随分猛練習を続けたが、ハイジャンプの練習中に足首を捻挫し、二ヵ月間松葉杖の悲境に苦しみ、予選にも出場できなかった。遂に意を決し慶応の友人益田監督と二人で巴里へ行き、ジョイアンブル士官学校で柔道をやったり、英国では珍田大使によばれて日英協会の大会に出る光栄に浴くことが出来た。その間自分の夢であるボクシング世界チャンピオンにならんとロンドンピカデリーのアポロフィジカル・アカデミーに入り、大いにジャック・デンプシーやカルパンチエーに挑む計画を立て、校長夫妻の熱心な指導を受けること三ヵ月、祖父や両親の帰国要請も無にして親不孝を続けていたが、父が親友小林登現法学博士を秘かに迎えに寄こすという破目に会い、雄図むなしく英国を去り、アメリカを見物して一諸に帰って来た。それが四月で同級生は卒業していた。その年七月再び渡米学生相撲団に団長として桑港、ロスアンゼルスに渡り、勝ばなして帰って来たが全く恵まれた学生生活であった。

（校友・兵庫県会議員）